鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	日本文学

科目基礎情報

科目番号	0052	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	機械工学科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	教科書：「日本近代文学選」（アイブレーン）参考書：「五訂版漢字とことば　常用漢字アルファ」（桐原書店），本校指定の電子辞書.		
担当教員	熊澤 美弓		

到達目標

社会人としての日本語の理解力・表現力を備え，近現代を中心とした日本文化全般に親しむことができる.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章を読み,論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し,要約し,意見を表すことができる.	論理的な文章を読み,論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を理解し,自分の意見を表すことができる.	論理的な文章を読んでも論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し,要約し,意見を表すことができない.
評価項目2	代表的な文学作品を読み,人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに,その効果について説明したり自分の意見を表すことができる.	代表的な文学作品を読み,人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して内容について説明したり自分の意見を表すことができる.	代表的な文学作品を読んでも,人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解できず,内容について説明したり自分の意見を表すことができない.
評価項目3	常用漢字,熟語,慣用句等の基礎的知識についての理解を深め,その特徴を把握するとともに,それらの知識を適切に活用して表現できる.	常用漢字,熟語,慣用句等の基礎的知識についての理解を深め,その特徴を把握するとともに,それらの知識を利用して表現できる.	常用漢字,熟語,慣用句等の基礎的知識についての理解ができず,その特徴を把握するとともに,それらの知識を適切に活用して表現することができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	国語ＩＡ・ＩＢ・Ⅱの学習を受けて，３年生では，さらに日本語で書かれたさまざまな文章（小説・随想・評論・詩歌等）の読解を通して，社会人として必要な日本語の理解力，および日本語による表現力を身につけさせたい.
授業の進め方・方法	・すべての内容は学習・教育目標(Ａ)の〈視野〉および（Ｃ）の〈発表〉に対応する. ・授業は講義・演習形式で行う．講義中は集中して聴講する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.
注意点	［到達目標の評価方法と基準］ 「知識・能力」１～１３を網羅した問題を，２回の中間試験・２回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し，目標の達成度を評価する．達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする．合計点の６０%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す. ［学業成績の評価方法および評価基準］ 前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の平均点を６０%，小テストの結果を２０%，提出課題・口頭発表等の結果を２０%として評価する．ただし，前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の４回の試験ともに原則として再試験は行わない. ［単位修得要件］ 与えられた課題レポート等をすべて提出し，前期中間・前期末・後期中間・学年末の４回の試験，課題，小テストにより，学業成績で６０点以上を取得すること. ［あらかじめ要求される基礎知識の範囲］ 本教科は，「国語ＩＡ」「国語ＩＢ」「国語Ⅱ」の学習が基礎となる教科である. ［レポート等］ 理解を助けるために，随時演習課題を与え，提出させる．また夏期休業中の宿題として，課題図書による読書体験記を執筆させ，提出させる．さらに、「常用漢字アルファ」に基づき，漢字小テストを実施する. ［注意事項］授業中は学習に集中し，内容に対して積極的に取り組むこと．出された課題は期限を守り，必ず提出すること．学生の到達度などに応じて、授業内容の変更を行う場合がある。 なお，第２学年に引き続き，文部科学省認定の「漢字能力検定試験」への積極的な取り組みを奨励する．なお，本教科は後に学習する「文学概論Ⅰ・Ⅱ」「言語表現学Ⅰ・Ⅱ」等の基礎となる科目である.

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	本授業の概容および学習内容の説明 小説　山月記（中島敦）①	１．作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について，正確な読み書きと用法を習得している. ２．作品について，文学史的知識を身につけ，作品が書かれた時代背景を理解することができる. ３．小説のあらすじを把握し，登場人物の心情・行動を理解することができる.
		2週	小説　山月記（中島敦）②	上記１．２．３に同じ
		3週	小説　山月記（中島敦）③	上記１．２．３に同じ
		4週	小説　山月記（中島敦）④	上記１．２．３に同じ
		5週	小説　山月記（中島敦）⑤	上記１．２．３に同じ
		6週	文学のふるさと（坂口安吾）①	４．随想・評論作品の今日的な表現に使われる漢字・語句について，正確な読み書きと用法を習得している. ５．随想の持つ表現上の特色を理解することができる. ６．随想・評論について，作者の意図を理解し，論理の展開を把握することができる.
		7週	文学のふるさと（坂口安吾）②	上記４．５．６に同じ

		8週	前期中間試験	前期中間試験
	2ndQ	9週	文学のふるさと（坂口安吾）③	上記４．５．６に同じ
		10週	文学のふるさと（坂口安吾）④	上記４．５．６に同じ
		11週	日本近代文学史	7.日本の近代における文学史の概略を理解する.
		12週	サフラン（森鷗外）①	上記４．５．６に同じ
		13週	サフラン（森鷗外）②	上記４．５．６に同じ
		14週	サフラン（森鷗外）③	上記４．５．６に同じ
		15週	サフラン（森鷗外）④ 前期末までの復習	上記４．５．６に同じ 上記１～７の学習内容を理解している.
		16週		
後期	3rdQ	1週	前期末試験の解説と総括 評論　ミロのヴィーナス（清岡卓行）①	上記４．５．６に同じ ８．前期定期試験の内容を理解する.
		2週	評論　ミロのヴィーナス（清岡卓行）②	上記４．５．６に同じ
		3週	評論　ミロのヴィーナス（清岡卓行）③	上記４．５．６に同じ
		4週	評論　ミロのヴィーナス（清岡卓行）④	上記４．５．６に同じ
		5週	詩　萩原朔太郎①	９．詩歌について，文学史的知識を身につけ，作品が書かれた時代背景を理解することができる. １０．詩歌作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について，正確な読み書きと用法を習得している.
		6週	詩　萩原朔太郎②	上記９．１０．１１に同じ
		7週	詩　萩原朔太郎③ 後期中間までの復習	上記９．１０．１１に同じ
		8週	後期中間試験	上記１～11について理解し，説明することができる.
	4thQ	9週	後期中間試験の解説と総括 随筆　科学者とあたま（寺田寅彦）①	上記４．５．６に同じ
		10週	随筆　科学者とあたま（寺田寅彦）②	上記４．５．６に同じ
		11週	随筆　科学者とあたま（寺田寅彦）③	上記４．５．６に同じ
		12週	小説　夢十夜①	上記１．２．３に同じ １２．小説について，鑑賞能力を養い，自分の感想を文章にまとめることができる.
		13週	小説　夢十夜②	上記１．２．３．１２に同じ
		14週	小説　夢十夜③	上記１．２．３．１２に同じ
		15週	学年末までの復習 年間授業のまとめ（アンケート）	上記１～１２の学習内容を理解している.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	課題・提出		合計
総合評価割合	60	20	20	0	100
配点	60	20	20	0	100